

# 田中実業株式会社

## 2023年度 環境経営レポート

(対象期間:2023年7月～2024年6月)



®環境省

エコアクション21  
認証番号 0013173

発行日:2024年10月3日

# 目 次

I.経営理念・ミッションービジョン・環境経営方針	…………… 1
II.組織の概要及び対象範囲	…………… 2
III.実施体制	…………… 3
IV.環境経営目標及びその実績	…………… 4～9
V.環境経営計画と達成手段・スケジュール・担当者・責任者	…………… 10
VI.環境経営計画と達成状況及びその評価(今後の取組対策)	…………… 11
VII.環境関連法規等の遵守状況の評価結果	…………… 12
VIII.代表者による全体の評価と見直し・指示	…………… 13
IX.参考資料(環境経営における取り組み事例等)	…………… 14～20

## I. 経営理念・ミッションービジョン・環境経営方針

### 経営理念

地域を支える企業集団として、事業に関わるすべての人の幸せを追求します。  
事業を通じ高い人間性を養い、地域で活躍できる人となります。

### ミッションービジョン

- ①ひとをつくる — 多くの社員が地域社会で活躍する人材輩出企業となる。
- ②まちをつくる — 営業所を中心にした住みよいまち田中実業タウンを創造する。
- ③なかまをつくる — 高い提案力と経営力を有し多くの取引先から信頼され、共に成長発展する企業となる。
- ④新見を元気に — 新見市の経済を牽引し域内経済の好循環を作り出す。

### 環境経営方針

化石燃料中心の業態から転換していくことを目指し、  
従業員に環境経営方針を周知し、継続的な改善に努めます。

1. 二酸化炭素排出量の削減を推進します。
2. 廃棄物削減と分別処理を推進します。
3. 水使用量の削減を推進します。
4. 石油類やLPガスを適正に管理・貯蔵します(化学物質の管理を含む)。
5. 省エネ製品の提案に努め、お客様のエネルギー使用量を削減します。
6. 環境関連法規等を遵守します。
7. 地域内における事業の協業化を模索し、効率化と省エネを推進します。

2019年4月3日制定 2023年10月20日改定

田中実業株式会社 代表取締役社長 田中康信

## Ⅱ．組織の概要及び対象範囲

(1) 事業者名

田中実業株式会社 代表取締役社長 田中康信

(2) 所在地

本社・新見営業所(LPガス・石油製品)	〒718-0013 岡山県新見市正田270
新見SS	〒718-0011 岡山県新見市新見311
ワタナベキカイ	〒718-0003 岡山県新見市高尾2471-8
岡山営業所(LPガス・石油製品)	〒701-0151 岡山県岡山市北区平野825
津山営業所(LPガス・石油製品)	〒708-0841 岡山県津山市川崎1940
津山インターSS	〒708-0842 岡山県津山市河辺926
真庭営業所(LPガス)	〒717-0013 岡山県真庭市勝山779

(3) 事業内容

LPガス・石油製品(燃料油・潤滑油)の卸及び販売、セメント・生コンの販売、ガソリンスタンドの運営、人材紹介サービス、保険サービス、農業機械の販売・修理

(4) 環境管理責任者及び環境推進責任者及び環境事務局

環境管理責任者 取締役新見営業所長 藪木健之	TEL:0867-72-2516
環境推進責任者 取締役岡山・津山営業所長 土井研二	TEL:086-293-3555
環境推進責任者 真庭営業所長 宮崎伸一	TEL:0867-44-4406
環境事務局 児谷和徳	TEL:0867-72-3445

(5) 設立

1931年5月

(6) 資本金

1,000万円

(7) 事業の規模(2024年6月期)

売上高 46億3,635万円 従業員数 99人

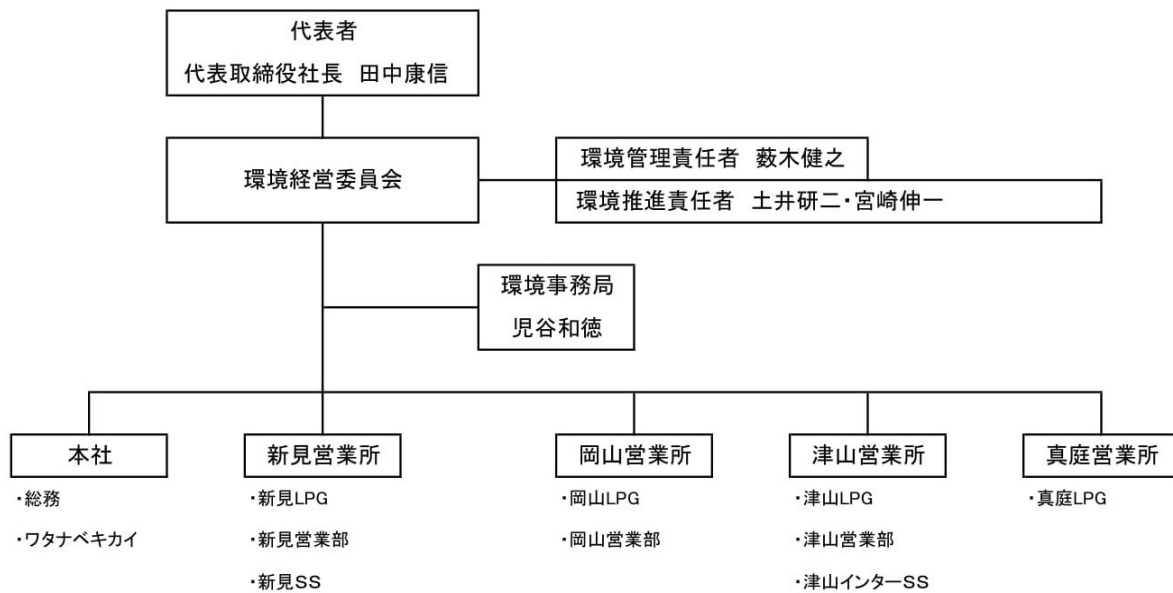
(8) 対象範囲

登録範囲:上記(3)事業内容と同じ

対象組織	人員	事業活動	登録月	対象組織	人員	事業活動	登録月
本社	16人	全社の活動統括 人材紹介サービス	2020年10月	岡山営業所	22人	LPガス・石油製品の卸及び販売	2022年9月
新見営業所	20人	LPガス・石油製品の卸及び販売、生コン・セメントの販売	2020年10月	津山営業所	21人	LPガス・石油製品の卸及び販売	2022年9月
新見SS	4人	ガソリンスタンドの運営、石油製品の販売	2020年10月	津山インターSS	6人	ガソリンスタンドの運営、石油製品の販売	2022年9月
ワタナベキカイ	6人	農業・林業機械のメンテナンス・販売・修理	2022年9月	真庭営業所	4人	LPガスの卸及び販売	2022年9月

※人員にはアルバイト・パート数を考慮

### Ⅲ. 実施体制



	役割・責任・権限
代表者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境経営システム全体の統括</li> <li>・代表者による経営における課題とチャンスの明確化</li> <li>・環境経営方針の策定・見直し及び全従業員へ周知</li> <li>・エコアクション21の取り組みに必要な資源(人・設備・費用等)の確保</li> <li>・エコアクション21の取り組みに対する全体の評価と見直し・改善指示</li> <li>・環境経営レポートの承認</li> </ul>
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境経営システムの構築・管理・運用</li> <li>・環境経営委員会でのエコアクション21の取り組み状況の報告</li> <li>・環境経営目標・環境経営計画の作成</li> </ul>
環境推進責任者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管轄営業所におけるエコアクション21の取り組みの推進・見直し・改善指示</li> <li>・環境関連法規等取りまとめ表の作成</li> <li>・エコアクション21の取り組みに必要な手順書の作成</li> <li>・事故及び緊急事態への対応手順書の作成及び教育・訓練の実施</li> </ul>
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境管理責任者・環境推進責任者のサポート</li> <li>・「環境への負荷の自己チェック表」の作成</li> <li>・環境経営レポートの作成</li> <li>・エコアクション21の取組に必要な環境データの取りまとめ及び資料作成</li> </ul>
推進担当者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所属事業所におけるエコアクション21の取り組みの推進・見直し・改善指示</li> </ul>
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経営理念及び環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚</li> <li>・エコアクション21の取り組みへの理解及び主体的参加</li> </ul>

## IV. 環境経営目標及びその実績

### 1. 中期目標

※各年度の期間：7月～翌年6月

項目	年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
		基準年度	(第65期)	(第66期)	(第67期)	(第68期)
二酸化炭素	kg-CO <sub>2</sub>	523,567	518,331	513,096	507,860	502,624
排出量削減	対基準		-1%	-2%	-3%	-4%
電力	kWh	200,628	198,622	196,615	194,609	192,603
使用量削減	対基準		-1%	-2%	-3%	-4%
ガソリン	L	56,498	55,933	55,368	54,803	54,238
使用量削減	対基準		-1%	-2%	-3%	-4%
軽油	L	92,237	91,315	90,392	89,470	88,548
使用量削減	対基準		-1%	-2%	-3%	-4%
灯油	L	506	501	496	491	486
使用量削減	対基準		-1%	-2%	-3%	-4%
液化石油ガス	kg	13,502	13,367	13,232	13,097	12,962
使用量削減	対基準		-1%	-2%	-3%	-4%
一般廃棄物	kg	29,729	29,432	29,134	28,837	28,540
排出量削減	対基準		-1%	-2%	-3%	-4%
産業廃棄物	kg	35,042	34,692	34,341	33,991	33,640
排出量削減	対基準		-1%	-2%	-3%	-4%
水	m <sup>3</sup>	3,898	3,859	3,820	3,781	3,742
使用量削減	対基準		-1%	-2%	-3%	-4%
燃料転換	件	17	17	17	17	17
推進	対基準		0%	0%	0%	0%
ガソリン車	km/l	実績不明	13.27	13.40	13.54	13.67
燃費向上	対基準		(基準値)	1%	2%	3%
軽油車	km/l	実績不明	6.69	6.76	6.82	6.89
燃費向上	対基準		(基準値)	1%	2%	3%
化学物質の適正な管理と数値の把握	ベンゼン	kg	24,060	数量把握		
	エチル	kg	35,910			
	キシレン	kg	197,501			
	トリメチル	kg	148,509			
	ベンゼン	kg	305,236			
	トルエン	kg	136,458			
	フルマルヘ	kg	43,092			
	合計	kg	890,766			

注1) 電力の二酸化炭素排出係数 (kg-CO<sub>2</sub>/kWh) : 中国電力…0.536、アストモスE…0.574、出光電気…0.516

※いずれも2021年度実績の調整後排出係数

注2) 電力使用比率(概算) : 中国電力29%、アストモスエネルギー69%、ウエスト電力2%

注3) 2021年度より営業活動における省エネガス製品への燃料転換件数を目標に設定。

注4) 2021年度より化学物質の適正な管理と数値の把握を目標に設定。→数値目標は設定しない。

注5) 2023年度よりガソリン車・軽油車の燃費向上を目標に設定。→2023年度は数値を把握し評価は2024年度から。

## 2. 活動期間中の運用実績と達成度評価

### (1) 運用実績

項目	期間		2023年度（第65期）				
		2022年度 （第64期）	目標	実績	達成度	評価	
二酸化炭素 排出量削減	kg-CO <sub>2</sub>	523,567	518,331	498,594	104.0%	○	
	対基準		-1%	-4.8%			
電力 使用量削減	kW h	200,628	198,622	173,188	114.7%	○	
	対基準		-1%	-13.7%			
ガソリン 使用量削減	L	56,498	55,933	52,499	106.5%	○	
	対基準		-1%	-7.1%			
軽油 使用量削減	L	92,237	91,315	92,422	98.8%	△	
	対基準		-1%	0.2%			
灯油 使用量削減	L	506	501	564	88.8%	×	
	対基準		-1%	11.5%			
液化石油ガス 使用量削減	kg	13,502	13,367	13,266	100.8%	○	
	対基準		-1%	-1.7%			
一般廃棄物 排出量削減	kg	29,729	29,432	21,523	136.7%	○	
	対基準		-1%	-27.6%			
産業廃棄物 排出量削減	kg	35,042	34,692	24,356	142.4%	○	
	対基準		-1%	-30.5%			
水 使用量削減	m <sup>3</sup>	3,898	3,859	3,761	102.6%	○	
	対基準		-1%	-3.5%			
燃料転換	件	17	17	27	158.8%	○	
ガソリン車 燃費向上	km/l	実績不明	実績調査	13.27	100.0%	○	
	対基準		-	-			
軽油車 燃費向上	km/l	実績不明	実績調査	6.69	100.0%	○	
	対基準		-	-			
化学物質の適 正な管 理と数 量の把 握	ベンゼン	kg	24,060	数量把握	19,151	100.0%	○
	エチル	kg	35,910		28,584		
	ベンゼン	kg	197,501		145,819		
	フロメチル	kg	148,509		104,381		
	ベンゼン	kg	305,236		242,964		
	トルエン	kg	136,458		108,619		
	メチル	kg	39,511		34,301		
	フタレン	kg	887,185		683,819		
	合計	kg	887,185		683,819		

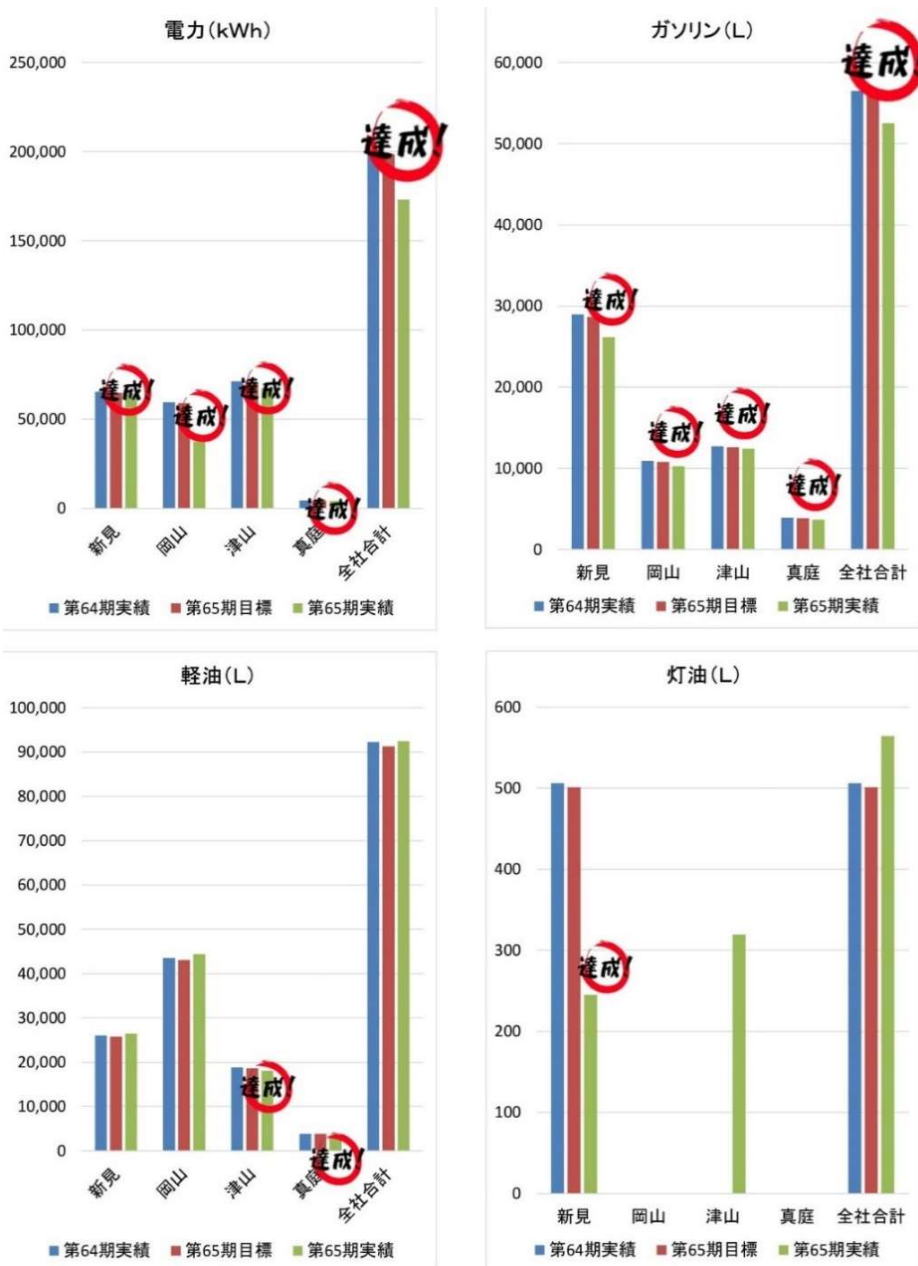
注1) 削減目標の達成度=目標÷実績×100%、増加目標の達成度=実績÷目標×100%

注2) 評価欄にて、○：100%以上、△：95%～100%未満、×：95%未満

注3) 化学物質の適正な管理と数値の把握の達成度には、数量比較は反映させない。

→上記実績データは参考値

グラフ①



【ガソリン・軽油の増減に関する考察】

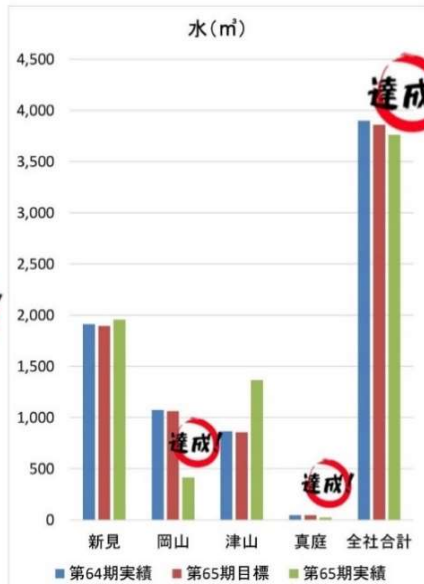
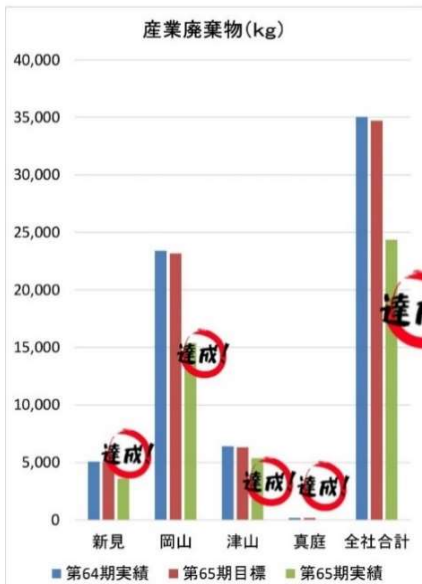
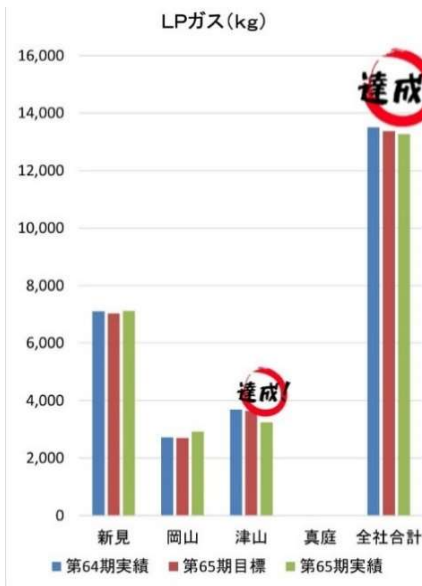
ガソリン・軽油は、営業活動や配送活動の状況により増減が出てくるため、一概に「増えたから悪い」「減ったから良い」とは言えず、今後燃費を指標に評価することとしている。第65期においては現状の燃費を把握したため、第66期以降で具体的に考察を行っていく。

【灯油／新見の減少、津山の増加に関する考察】

いずれもSSにおける冬場の暖房としての使用だが、新見は途中でエアコンへ一本化し使用量が半減した。津山は商品として販売できなくなった灯油を、一時的に自家使用に回したため発生したものの。よって今後については、どの拠点においても灯油を使用する予定はない。



グラフ②



【LPガス／新見・岡山の増加に関する考察】

GPSの使用が大半のため、気温に左右されやすいが、エリアにより差が出ているのは、意識の差がある証拠。未達部署では、さらにエコ意識を高める必要がある。

【一般・産業廃棄物／全体的な大幅減に関する考察】

後楽園SS(岡山)の閉鎖が大きいですが、エコアクションの取り組みの一環で強化していた倉庫等の整理が、第65期についてはやや落ち着いた影響もある。

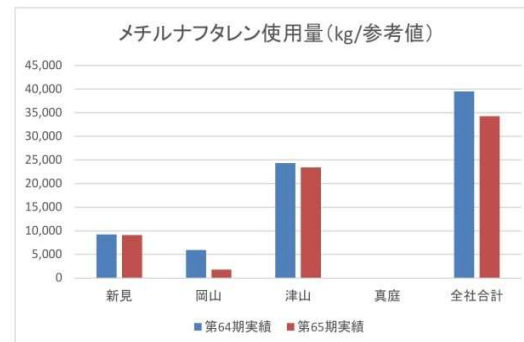
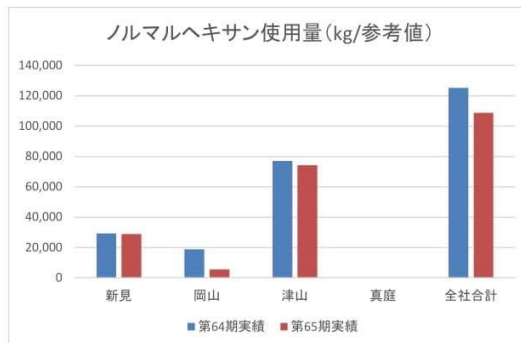
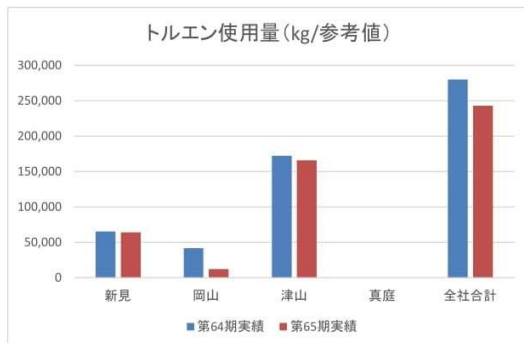
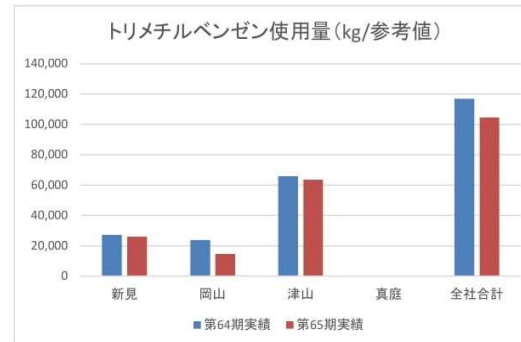
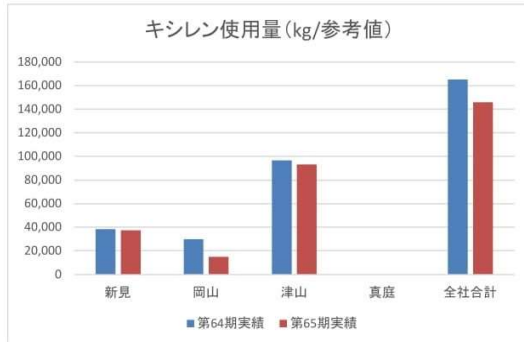
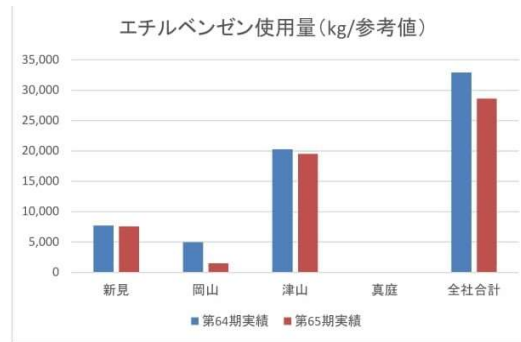
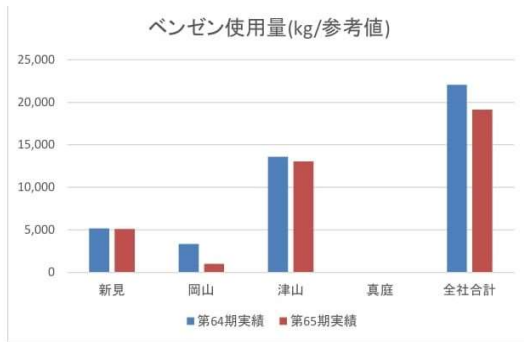
【水／新見・津山の増加に関する考察】

新見・津山営業所では漏水調査を進め、津山では水道管の一部を修繕したが、2拠点とも完全な原因究明には至っていない。工事費用も考慮し、当面は様子を見る。

【燃料転換／全エリアでの達成に関する考察】

メーカーの販促キャンペーンを活用するなど、営業方針に則った活動を強化したことが成果に繋がった。

グラフ③



(2) 運用実績に対する達成度評価

エコアクション21の取り組みも、導入時から参加した新見エリア(本社・新見営業所)が5年目、全組織への拡大に伴い参加した岡山・津山・真庭営業所が4年目を迎え、浸透が図れてきた。全社の達成度は、軽油と灯油(前年度の計量ミスが原因)が未達になったが、概ね達成できた。ただし、エリア別・部署別でみていくと、意識の弱さに起因した取り組みの甘さも確認できる。全社員にとって主体的な取り組みにするためにはどうすれば良いか、その方法を考えていきたい。

	達成度	達成度評価
電力使用量削減	114.7%	拠点別達成率 新見:100.6%、岡山:158.2%、津山:104.7%、真庭:104.5% 岡山の後楽園SSを閉鎖したことが大きい。全社的にエコアクションの取り組みが浸透したことで、就業時間外の消灯や間引き照明などが平準化されてきたことも功を奏して、全拠点でオール達成となった。ただ一部では、ガスや燃料油の販売量減少が電力使用量の減少に繋がった可能性もある。
ガソリン使用量削減	106.5%	拠点別達成率 新見:109.7%、岡山:105.3%、津山:101.5%、真庭:105.0% 営業所やSSにおいては、営業活動や配達業務の動きが弱かったところもあるが、少しでも消費を抑制できるよう、移動経路の見直しなどにより効率的な動きを心掛けたこともあり、全拠点でオール達成となった。 ※燃費による評価は、2024年度(第66期)からスタートできるよう準備中。
軽油使用量削減	98.8%	拠点別達成率 新見:97.3%、岡山:97.1%、津山:103.0%、真庭:109.9% 新見・岡山では未達、津山・真庭では達成と、現場の状況により差が出た(例えば燃料油の再配達について、新見では増え、津山では減った、など)。ガソリン同様、全拠点的に効率的な動きはできてきており、その点は評価できる。 ※燃費による評価は、2024年度(第66期)からスタートできるよう準備中。
灯油使用量削減	88.8%	拠点別達成率 新見:204.5%、岡山:-、津山:0.0%、真庭:-% 石油ファンヒーターでの冬季暖房だが、新見・津山のSSのみが対象。新見は石油ファンヒーターを使わずエアコンに一本化した方が経済的・効率的と判断し期中で使用を止めたため、達成率が大きくなった。津山は商品として販売できなくなった灯油を一時的に自家使用に回したもので、今後使用する予定はない。
液化石油ガス使用量削減	100.8%	拠点別達成率 新見:98.8%、岡山:92.5%、津山:112.5%、真庭:-% 空調設備としてGHP(ガスヒートポンプエアコン)を使っている拠点(本社・営業所)が対象で、全体としては何とか目標達成できた。気温が大きく起因するため、夏場に猛暑日が続く最近の傾向を踏まえると、一定の評価はできる。ただ、部署により差異もあり、細かいところでの意識の差を感じる。
一般廃棄物排出量削減	136.7%	拠点別達成率 新見:108.9%、岡山:183.7%、津山:139.4%、真庭:81.0% 岡山の後楽園SSの閉鎖に加え、全社的にゴミの分別が進んだことで、可燃物・不燃物ともに減らすことができています。また、事務所や倉庫の整理整頓を推進する中で、2022年に一気に不用品を出した反動で、2023年度は少なくなった拠点もある。全社的に意識が高まっており、良い傾向にはある。
産業廃棄物排出量削減	142.4%	拠点別達成率 新見:139.0%、岡山:150.8%、津山:117.7%、真庭:-% リフォームなどの工事やオイル交換等の作業に起因する部分が大きく、溜めてから一気に廃棄するものも多いので、そのタイミングで年間排出量にも差が出ている。後楽園SSの閉鎖によって前年比との比較は難しいが、マニフェストを発行した適切な廃棄処理はできている。
水使用量削減	102.6%	拠点別達成率 新見:96.7%、岡山:257.4%、津山:62.8%、真庭:182.2% 後楽園SSを閉鎖した岡山と節水への取り組みを強化した真庭で、大幅に削減できた。新見と津山の両営業所では漏水調査を進めたが、十分な原因解明には至らなかった(津山では水道管の一部を修繕したが改善幅は小さかった)。これ以上の調査にはかなりのコストも要するため、当面は様子を見ることとした。
燃料転換推進	158.8%	拠点別達成率 新見:100.0%、岡山:200.0%、津山:180.0%、真庭:150.0% 灯油・電気製品からガス製品への切り替えを中心に営業推進し、全拠点で目標達成した。特に岡山・津山では、メーカーの販促キャンペーンを活用するなど、営業方針に則った活動を強化したことが成果に繋がった。
化学物質の適正な管理と数量の把握	100.0%	どの拠点においても、特に事故やトラブル等も無く、化学物質の適正な管理が徹底できている。また、数量については販売量に比例するため、単に削減できれば良いということにはならないが、きちんと把握できており、データ上も問題ない。 ※達成率は、適正な管理と数量の把握がきちんとできているということで100%

## V. 環境経営計画と達成手段・スケジュール・責任者

環境経営計画	達成手段(具体的取組内容)	スケジュール	責任者
電力使用量の削減			
・空調温度の適正化(冷房26℃・暖房23℃)	エアコン等のスイッチ周りに設定温度を書いたシールを貼り、徹底を図る。	2023.7～2024.6	
・クールビズ・ウォームビズの推進	設定された室温の中で、各自で衣類による温度調節を行うよう、声掛けにより徹底を図る。	2023.7～2024.6	
・就業前・昼休み等の消灯推進	声掛けにより徹底を図る。	2023.7～2024.6	
・LEDの導入及び間引き照明の実施	業務に支障がない程度に照明を間引く。	2023.7～2024.6	
ガソリン使用量の削減			
・エコドライブの実施	車内にエコドライブ推進を書いたシールを貼り、徹底を図ることで燃費向上にも繋げる。	2023.7～2024.6	
・アイドリングストップの実施	車内にエコドライブ推進を書いたシールを貼り、徹底を図ることで燃費向上にも繋げる。	2023.7～2024.6	
・タイヤ空気圧チェックの習慣化	声掛けにより徹底を図ることで、燃費向上にも繋げる。	2023.7～2024.6	
軽油使用量の削減			
・エコドライブの実施	車内にエコドライブ推進を書いたシールを貼り、徹底を図ることで燃費向上にも繋げる。	2023.7～2024.6	[新見]
・アイドリングストップの実施	車内にエコドライブ推進を書いたシールを貼り、徹底を図ることで燃費向上にも繋げる。	2023.7～2024.6	藪木
・タイヤ空気圧チェックの習慣化	声掛けにより徹底を図ることで燃費向上にも繋げる。	2023.7～2024.6	[岡山]
灯油使用量の削減			土井
・空調温度の適正化(冷房26℃・暖房23℃)	室内に設定温度を書いたシールを貼り、徹底を図る。	2023.7～2024.6	
・クールビズ・ウォームビズの推進	設定された室温の中で、各自で衣類による温度調節を行うよう、声掛けにより徹底を図る。	2023.7～2024.6	[津山]
液化石油ガス使用量の削減			土井
・空調温度の適正化(冷房26℃・暖房23℃)	室内に設定温度を書いたシールを貼り、徹底を図る。	2023.7～2024.6	[真庭]
・クールビズ・ウォームビズの推進	設定された室温の中で、各自で衣類による温度調節を行うよう、声掛けにより徹底を図る。	2023.7～2024.6	宮崎
一般・産業廃棄物排出量の削減			
・分別処理の推進	ごみの分別処理を行うことで、資源化物のリサイクルを推進する。	2023.7～2024.6	
水使用量の削減			
・節水の周知徹底・意識向上	水道の蛇口周りに節水呼び掛けシールを貼り、徹底を図る。	2023.7～2024.6	
・漏水対策の実施	定期的に使用量データを確認し、急増した場合は漏水を疑い、原因究明と対策を実施する。	2023.7～2024.6	
燃料転換の推進			
・顧客への省エネ商品の提案	日々の営業活動の中で、お客様の状況に応じて商品やサービスを提案する。	2023.7～2024.6	
石油類やLPガスの適正な管理・貯蔵 (化学物質の適正な管理と数量の把握を含む)	各種法令やSDSに則った運用を遵守することにより、石油類やLPガスの適正な管理・貯蔵、化学物質の適正な管理と数量の把握の徹底を図る。	2023.7～2024.6	
経営指針発表会におけるエコアクション21の取り組みへの意識醸成	エコアクション21に関するアンケート調査を実施し、意識や行動の底上げを図る(第65期経営指針発表会)。	2024.7.28	

## VI. 環境経営計画と達成状況及びその評価(今後の取組対策)

環境経営計画	達成状況	評価(今後の取組対策)
電力使用量の削減		
・空調温度の適正化(冷房26℃・暖房23℃)	○	不要時は切ることも含めエアコンの室温管理は、全社的に着実に改善している。引き続き全社員が率先してできるよう、周知徹底を推進していく。
・クールビズ・ウォームビズの推進	○	設定された室温の中で、各自で衣類による温度調節はできており、今後も継続していく。
・就業前・昼休み等の消灯推進	○	就業前や昼休み、人が少ない時間帯には、全社的に徹底できるようになっている。引き続き全社員が率先してできるよう、周知徹底を推進していく。
・LEDの導入及び間引き照明の実施	○	LED照明への切り替えやセンサーライトの導入など、少しずつ増えている。また、間引き照明についても全社的に推進中なので、継続強化していく。
ガソリン使用量の削減		
・エコドライブの実施	○	燃費向上に加え看板車ということも含めて、全社的にエコ運転を徹底中。事故や違反の撲滅を図るべく、全社員が高い意識を持って取り組んでいく。
・アイドリングストップの実施	○	安全運転を第一に、必要に応じ暖機運転を行っている。不要なアイドリングを減らすことで燃費向上にも繋がっていると思うので、引き続き継続していく。
・タイヤ空気圧チェックの習慣化	△	安全運転を第一に、空気圧チェックの意識も高まっており、燃費向上にも繋がっていると思う。運転前やSSでの確認など、今一度全社にて徹底していく。
軽油使用量の削減		<b>目標未達対策…下配に加え、人員体制・配送方法・事前準備等の見直しを行い、より効率的な活動ができるよう改善を行う。</b>
・エコドライブの実施	○	燃費向上に加え看板車ということも含めて、全社的にエコ運転を徹底中。事故や違反の撲滅を図るべく、全社員が高い意識を持って取り組んでいく。
・アイドリングストップの実施	○	安全運転を第一に、必要に応じ暖機運転を行っている。不要なアイドリングを減らすことで燃費向上にも繋がっていると思うので、引き続き継続していく。
・タイヤ空気圧チェックの習慣化	△	安全運転を第一に、空気圧チェックの意識も高まっており、燃費向上にも繋がっていると思う。運転前やSSでの確認など、今一度全社にて徹底していく。
灯油使用量の削減 ※対象は新見のみ		<b>目標未達対策…前述の通り、取り組み自体に問題があったわけではないと思われるので、引き続き下配を徹底していく。</b>
・空調温度の適正化(冷房26℃・暖房23℃)	○	不要な暖房は切るようにしているが、室温を確認しながらの調整を今一度徹底し、きめ細かいチェックによりきちんと運用していく。
・クールビズ・ウォームビズの推進	○	設定された室温の中で、各自で衣類による温度調節はできており、今後も継続していく。
液化石油ガス使用量の削減 ※真庭は対象外		
・空調温度の適正化(冷房26℃・暖房23℃)	○	エアコンのスイッチ周りに設定温度シールを貼ったりサーキュレーターを設置し効率的に空気の循環を行っており、かなり徹底できているが、夏の暑さや冬の寒さが厳しい状況下であっても、少しでも省エネになる工夫を心掛けていく。
・クールビズ・ウォームビズの推進	○	設定された室温の中で、各自で衣類による温度調節はできており、今後も継続していく。
一般・産業廃棄物の削減		
・分別処理の推進	○	どの拠点においても、ゴミはきちんと分別し適正に廃棄できるようになってきている。さらに細かい分別等を検討し、運用を強化していく。
水使用量の削減		
・節水の周知徹底・意識向上	○	水道の蛇口周りに節水を呼び掛けたシールを貼り、事業所内で意識を高めながら習慣化できるようにしており、今後も継続していく。
・漏水対策の実施	△	定期的に使用量データを確認し、急増時には原因を探っているが、明確に突き止められず対策ができないこともある。引き続き対応を強化していく。
燃料転換の推進		
・顧客への省エネ商品の提案	○	全営業所において目標達成となったが、特にメーカーキャンペーンを有効活用しているところが成果を上げているので、参考にして広げていく。
石油類やLPガスの適正な管理・貯蔵 (化学物質の適正な管理と数量の把握を含む)	○	特に事故やトラブル等も無く、化学物質も含めて適正に管理・運用できている。また数量もきちんと把握できているので、今後も継続的に取り組んでいく。
経営指針発表会におけるエコアクション21の取り組みへの意識醸成	△	社員へのアンケートの結果、エコアクションに伴う行動があまりできていない人が22%いた。この結果を踏まえ、今一度取り組みの平準化を推進するための対策を検討していく必要がある。

※達成状況欄:◎よくできた ○まずまずできた △あまりできなかった ×全くできなかった

### ■上記を踏まえた環境管理責任者からの提案

どの拠点においても、エコアクションの取り組みが少しずつ強化され、成果も上がってきているが、一方で上記アンケート結果のように、まだまだ全社員に浸透できていない。会社として、拠点として、部署として、今一度対策を考えて実践してもらいたい。また、全拠点での事例共有を徹底し、より効率的且つスピーディーに全社的なレベルアップ・平準化を目指していきましょう。

## VII. 環境関連法規等の遵守状況の評価結果

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

遵守評価実施日:2024年9月10日

関連法規	遵守すべき事項	遵守評価
廃棄物処理法	・委託基準:一廃収集業者の許可の確認	○
	・委託基準:産廃収集運搬・処理業者の許可の確認、書面契約(契約書5年保存)	○
	・保管基準 掲示板:60cm×60cm以上表示、飛散・浸透防止・囲い設置、衛生管理	○
	・マニフェスト交付、管理(回付日記入等) ・B2、D票90日(60日)、E票180日(180日)以内に送付されない場合は30日以内の知事への報告(〇内は特管物の場合) ・A、B2、D、E票の保管(5年間) ・マニフェスト交付状況の報告	○
水質汚濁防止法(瀬戸内法) ※適用事業所:営業部・SS	(事故時措置) ・油及び有害な化学物質等の流出事故時の応急措置(流出及び浸透防止)と届出(状況等)	○
化学物質排出把握管理促進法(PRTR法) ※適用事業所:営業部・SS	・第1種指定化学物質取扱者による排出移動量の県知事への6月末までの報告(年間取扱量1トン以上で従業員21名以上の場合、対象業種:廃棄物処理業、製造業、自動車整備業等) ・性状及び取扱に関する情報(SDS)の受取、発行(安全データシート)	○
消防法	・危険物貯蔵所、取扱所の設置許可 ・技術上の基準遵守	○
	・危険物保安監督者の選任、届出 ・貯蔵所、取扱所等の表示 ・掲示板の設置	○
	・消火設備の定期点検(防火対象物)	○
	・地下タンクの定期検査	○
	ガソリンの容器詰替え販売における本人確認	○
	・事故時の措置と届出(通報)	○
自動車リサイクル法 ※適用事業所:SS	使用済自動車の適正な事業者(引取登録事業者)への引き渡し	○
浄化槽法 ※適用事業所:本社・SS	・浄化槽設置届及び使用開始報告 ・保守点検及び清掃、記録保存(3年保存)	○
	・水質基準遵守 ・定期水質検査	○
高圧ガス保安法 ※適用事業所:ガス	・高圧ガス容器置場や充てん容器は、容器置場の技術上の基準に従う。 ・容器の定期検査	○
フロン排出抑制法 ※適用事業所:本社・ガス・営業部・SS (真庭を除く)	・フロン類の登録回収業者による適切な回収	○
	・フロン類回収時の委託確認書交付と引取証明書の保存(3年間)※引取証明書が無いと設備廃棄罰則(新) ・充てん量、回収量の記録保存(点検整備記録簿)	○
	・引取証明書が30日以内に送付されない場合の知事への報告(解体時90日)	○
	・第1種特定製品使用の簡易点検、定期点検・記録・保存、漏洩防止等 ・簡易点検:1回/3ヶ月 ・定期点検:1回/年	○

当社は環境問題に関し法令違反はありませんでした。また関係機関、利害関係者等からの指摘・訴訟も過去5年間ありませんでした。今後も引き続き環境関連法令を遵守します。

## VIII. 代表者による全体の評価と見直し・指示


経営における課題とチャンス	<p>【課題】 営業エリア内の様々な業種において、後継者不在や人材不足が進んでいる。需要の減少はもちろんだが、人的要因による事業の撤退や競争力の悪化も懸念される。</p> <p>【チャンス】 地域内において企業としての信頼度が高く、若手人材も安定的に確保できている。そのような中で、後継者不在に悩む企業の事業継承なども積極的に行っている。</p>
環境経営方針	<p>変更の必要性 <input type="checkbox"/> 要 <input checked="" type="checkbox"/> 否</p> <p>【コメント】 当面は現状のまま継続していきたい。</p>
環境経営目標・環境経営計画	<p>変更の必要性 <input type="checkbox"/> 要 <input checked="" type="checkbox"/> 否</p> <p>【コメント】 2023年度より、環境経営目標に「社用車の燃費向上」を加える。営業車や配送車の走行距離と使用燃料量から割り出した燃費をデータ化し検証する。</p>
その他	<p>変更の必要性 <input type="checkbox"/> 要 <input checked="" type="checkbox"/> 否</p> <p>【コメント】 当面は現状のまま継続していきたい。</p>
総括	<p>2019年に環境経営方針を策定し、エコアクション21の取り組みを開始して以来、全社員の環境意識が徐々に高まり、環境経営が定着しつつあります。特に、新見エリアの取り組みが他エリアにも影響を与え始めており、各部門での意識向上が見受けられます。しかし、全体的には依然として社員間での温度差が存在するため、引き続き意識改革が必要です。</p> <p>2024年7月には、経営指針発表会においてはアンケートを実施し、エコアクションへの取り組みについての再確認を行いました。環境経営の意識や取組状況を調査することで、全社的な取り組みの意識レベルを再認識し、今後の課題として位置づけています。このような活動を通じて、環境意識のさらなる向上を目指していきます。</p> <p>新設部門やM&amp;Aによりグループ化した関連会社では、まだ環境経営への取り組みが進んでいない状況です。まずは、中核企業である田中実業が率先して取り組み、グループ全体へと浸透させることが必要です。</p> <p>新たな取り組みとして、社員の評価制度を導入し、評価基準としてコンピテンシーを設定しました。これにより、個々の取り組みが評価されることで、社員の意識を高め、全社的な環境経営の推進につなげていくことを目指しています。</p> <p>今後も継続的な取り組みを行い、全社員が環境意識を持ち、積極的に行動する企業文化を育んでいく所存です。引き続き、エコアクション21の理念を実現するため、皆さまのご協力をお願い申し上げます。</p> <p>代表者による全体の評価と見直し・指示の実施日：2024年9月28日 代表者名：代表取締役 田中康信</p>

## IX. 参考資料(環境経営における取り組み事例等)


### ■畜産業を行う関連会社の牛肉販売サポート


持続可能な地域づくりを目指し設立した関連会社（株）いろいろカンパニーの牛肉を少しでも多くの方に購入してもらえよう、全社で様々な取り組みを行っています。

いろいろカンパニーの牛肉とは…



岡山県北の自然豊かな山の中  
親子放牧でのびのび育った牛さん達  
いろいろのお肉





耕作放棄地を活用した放牧スタイルで飼育しヘルシーで美味しい牛肉を生産

▲新見市の特産品・千屋 ▲新商品のワインパミス牛。他にもいろいろ牛や竹 ビーフ。独自の商品開発の谷蔓牛を生産。 に注力している。

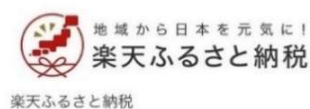
### ●地域密着型の直接販売



田中実業の取引先・顧客への直販や、各営業所内やイベント出店による催事販売、道の駅等の店舗での販売などを行いました。

同じ農業部門としては、農業機械の販売・修理も強化中！

### ●ふるさと納税返礼品への出品販売



田中実業が新見市のふるさと納税返礼品提供事業者の認定を受け、各寄附サイトに返礼品として牛肉及び加工品を掲載。第65期は、58件252,000円の売上に繋がりました。

### ●「ワタナベカイ」の集客力強化



2021年に事業継承した「ワタナベカイ」では、既存顧客のサポートに加え、新規顧客の開拓を目的に、SNSやウェブメディア「まいぶれ」（写真右）の活用を力を入れています。第65期には、初めての販促イベント（写真左）も開催しました。





## ■M&Aや人材の受入による経営基盤の強化

後継者不足に悩む小規模企業を積極的に買収しています。

これにより地域の雇用を守りつつ、自社グループの事業強化を図っています。

地域の経営資源を有効活用することで、新たな可能性を見い出しています。

実施年	M & A内容
2007年	マルフク ガス事業継承 → (株)マルフクプロパン 設立
2009年	岡山アポロガス 吸収合併
2009年	新見燃料商会 ガス営業権買収
2010年	福田燃料店 ガス・油営業権買収
2011年	山本プロパン 事業継承 → (株)山本プロパン 設立
2014年	津山興業(株) 株式取得
2014年	(株)ツヤマオイル 株式取得
2015年	(有)成羽石油 ガス営業権買収
2015年	(有)有行商店 ガス営業権買収
2016年	(株)タウンハウス 株式取得
2018年	竹内商店 ガス営業権買収
2019年	(有)高木石油店 株式取得
2020年	岩崎商店 ガス営業権買収
2021年	(有)黒田商事 株式取得
2021年	(有)渡辺機械 事業継承 → 農業サポート部門 新設
2022年	(株)岡北サービス ガス営業権買収
2022年	長尾石油(株) 株式取得
2023年	(株)はま田 ガス営業権買収
2023年	(有)デイリーフーズ 事業継承 → (株)デイリー 設立

専門能力の高い人材の雇用により新サービスを展開中！

### ●整備サービスや土木事業をスタート



▲新設した土木部門の施工事例

新見市内の土木会社の閉業に伴い人材を受け入れ、田中実業内に土木部門を新設。ガス等の関連工事に対応していきます。

岡山営業所では、専門能力の高い社員による出張整備サービスをスタート。車やパソコンの修理など、最近の需要にマッチしたサービスで人気です。

**車の洗車も  
オイル交換も  
パソコン修理も！**

**自宅や職場にお伺いして対応します！！**

※岡山県内対応。一部地域を除く。

**水道や電源の用意は不要！場所を問わずにどこにでも！**

<ul style="list-style-type: none"> <li>☑ 手洗い洗車</li> <li>☑ 各種コーティング</li> <li>☑ オイル交換</li> <li>☑ タイヤ交換</li> <li>☑ 故障整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☑ 自動車査定</li> <li>☑ 名義変更</li> <li>☑ 中古車売買</li> <li>☑ パソコン修理</li> <li>☑ スマホ販売・ などなど</li> </ul>
---	---

**※すべて 現地に対応可能です！！**

▲出張整備サービスのチラシ（抜粋）

## ■地域メディアの運営

過疎化が進む本社のある新見市では、メディアによる地域活性に取り組んでいます。経済の域内循環と外貨獲得を目指し、多彩な媒体で新見市の魅力を発信しています。

### ●月刊フリーペーパー「にいまいろ」

- ・2018年7月の創刊から60号以上発行
- ・新聞折込媒体として地域の魅力発信

→ 持続可能な地域メディアを目指し、2023年11月～広告媒体へリニューアル

↓ 〈創刊号〉



### ●地域情報ポータルサイト「まいぷれ新見市」

- ・2020年11月OPENのウェブメディア
- ・地域のニュースをタイムリーに収集

→ 〈最新情報や定番特集など〉



### ●新見市WEB企業ガイド「ニイミノシゴト」

- ・運営協議会から委託されサイト運営
- ・人材確保を目的に企業情報を発信

仕事も暮らしも、新見とともに…

# ニイミノシゴト



## ■働き方改革の推進

様々な観点から現在の労働環境すべく、継続的に取り組みを行っているところです。従前から推進している有休取得率の向上に加え、直近では年間休日も増やしています。また、会社全体の幸せを可視化する「幸せデザインサーベイ」も継続実施中です。

### ●年間休日数と有給取得数の推移

エリアによりバラツキはあるものの、3年連続で年間休日が増えている中で、有休取得率も向上中。また、ここ2年の平均残業時間は全社で5時間半～6時間程度と、ほぼ変わらず。引き続き改善は必要ですが、全体としては良い傾向にあると思われれます。

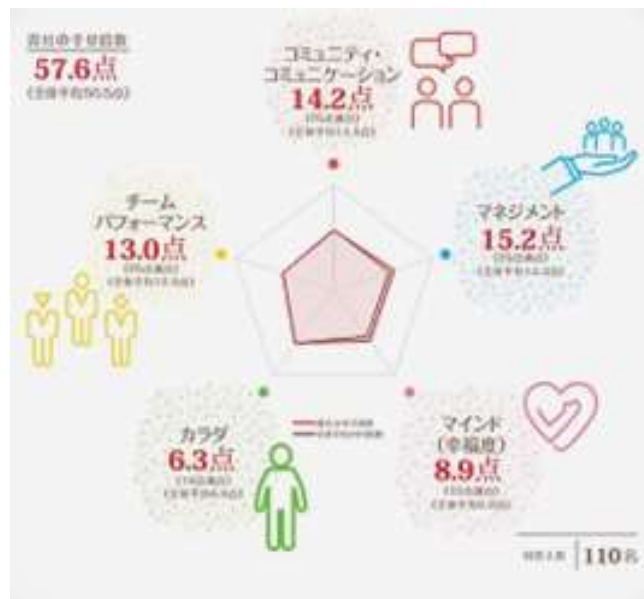
	第63期			第64期			第65期			増加率
年間休日数	107日			110日			114日			3.6%
有休取得数	付与日数	取得日数	取得率	付与日数	取得日数	取得率	付与日数	取得日数	取得率	増加率
新見	621	345.5	55.6%	619	456	73.7%	688	498.5	72.5%	-1.2%
岡山	402	200.5	49.9%	390	161.5	41.4%	413	173.5	42.0%	0.6%
津山	410	192	46.8%	437	278.5	63.7%	470	314	66.8%	3.1%
真庭	96	31	32.3%	58	27	46.6%	70	47.5	67.9%	21.3%
合計	1529	769.0	50.3%	1504	923.0	61.4%	1641	1034	63.0%	1.6%

### ●会社の成長や持続性に繋げる取り組み「幸せデザインサーベイ」

社員への幸せに関するアンケートで会社全体の幸せを可視化  
→従業員の幸福感を高め、創造性・生産性向上を目指す

#### ■約100問のアンケート結果を集計

- ①コミュニティ・コミュニケーション
  - ②チームパフォーマンス
  - ③マネジメント
  - ④カラダ
  - ⑤マインド（幸福度）
- 5つの幸せ要素を点数化



→点数の向上を目指して毎年継続的に実施し、会社の成長に繋がっていきます。

## ■社員と会社の健康寿命を延ばす取り組み

健康経営優良法人の連続認定に向け、2024年度のテーマを「運動」に決めました。

### ●スマホアプリを活用した歩数管理

「大同生命 KENCO SUPPORT PROGRAM」により、社員の歩数を管理しました。歩く習慣をつける目的でキャンペーンに参加し、社内対抗戦で優秀者を表彰しました。

#### KENCO SUPPORT PROGRAM アプリとは



KENCO SUPPORT PROGRAM アプリは、連携する機器やアプリより歩数の計測を行い「STEP03日々の健康管理」メニューと歩数データの連携ができます。また、アプリから「STEP01最新の健康リスク」「STEP02健康リスクの将来予測」「STEP04健康増進メニュー」など、KENCO SUPPORT PROGRAMの各種機能をご利用いただけます。

※2019年4月1日よりダウンロードいただけます。



### ●2年連続で「健康経営優良法人2024」認定

社員が健康は、医療費・保険費の削減、従業員の意欲向上、企業の生産性向上などに直結するため、全社員への健康習慣アンケートの結果をもとに、受動喫煙の防止など、具体的な社内環境の改善に取り組んでいます。

テーマとして打ち出した「運動」実行したこともあり、2年連続で健康経営優良法人に認定されました。今後も連続での認定を目指します。



2024  
健康経営優良法人  
Health and productivity

## ■ 「人」を育てる新たな取り組み

人を育て企業の発展に結び付ける仕組みづくりの一環として、人事評価制度の構築に取り組みました。

また、社員の金融リテラシー向上のため、取引先銀行から講師に招き、マネーセミナーを実施しました。

### ●コンピテンシーを導入した人事評価制度を構築

経営理念に沿った行動が出来る社員の教育手段として、コンピテンシーを導入。

コンピテンシーとは、高いパフォーマンスを発揮する人（=仕事ができる人）に共通して見られる行動特性を指します。自社に求められるコンピテンシーを作成するため、社員の中からコンピテンシープロジェクトメンバーを選出。メンバーを中心としてコンピテンシー作成研修を実施し、成文化しました。



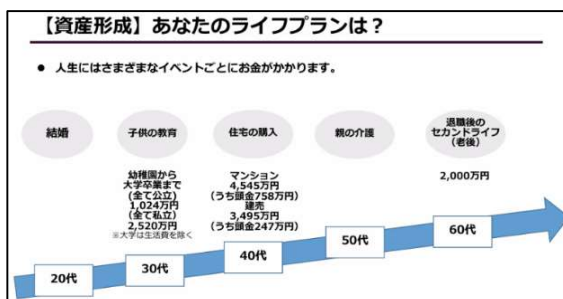
・コンピテンシーを活用することで目指すもの  
社員の意識が変わる→社員が自主的に会社を良くする行動を起こす→お客様にも社員や会社の変化が伝わる→会社の業績アップにつながる

・コンピテンシーは評価制度に組み込み点数化  
ステージ（役職）に応じた役割要件や、動画研修のレポート作成などを点数化することで、人事評価制度として2024年から運用開始

### ●金融リテラシー向上を目的としたマネーセミナーを実施

「社会人として知っておきたい投資の基礎知識」と題して各営業所にて実施。

講師は取引先銀行の行員で、新NISAやiDeCoなど投資の基礎知識を学びました。



## ■ その他（活動の波及効果）

エコアクションの取り組みについて、より多くの社員が意識するようになり、「少しでも成果が上がるように」「もっと別の視点で新たな効果を」などと、部署や社員のレベルで意見を出し合い、行動に移す動きが広がってきています。

- 節電・節水・エコドライブなどの推進に伴う社内各所での啓蒙表示について、挿し絵を入れたり文字色・書体を変え、より見やすく改善している。



- ゴミ分別の取り組みから派生し、ベルマーク、ペットボトルの蓋、使用済み切手などを収集することで可能になる、社会貢献活動に取り組んでいる。



- 業務効率化はもちろん、節電への意識が高まることで、定時退社（残業時間ゼロ）を目指す取り組みや意識付けが定着してきている。

- エコアクションがきっかけで、事務所や車内の整理整頓が習慣化できるようになり、さらに社内外での挨拶や会社周辺の美化にも取り組めるようになっている。



- 安全で快適な職場環境づくりを目指し、給油所の足場や本社と新見営業所間の通路の設置、さらに防犯カメラやセンサーライトの導入などが進んできている。



- 地域で活躍できる人材を目指し、各エリアの商工会議所、商工会議所青年部、青年会議所、消防団などに、多くの社員が参加している。

- M&Aの派生効果として、黒田商事の社員が、業務に必要な中型免許を取得するまで、人員不足の田中実業新見SSを手伝っている。後者の課題だった有休取得率も上げることにも繋がられている。

